



SCOPH

Public Health

2013年1月12日、13日
ぬいぐるみ病院プロジェクト
スタッフMTG@つくば
報告書

作成者 永田浩貴、山足公美絵、遠藤理紗

作成日 2013年1月29日

ぬいぐるみ病院プロジェクトスタッフMTG@つくば

日時	2013年1月12日 10:30-17:30 1月13日 9:00-13:00
目的・対象	12日:勉強会 目的:「こども」に焦点を当て、学生同士で学び合う。 対象:ぬいぐるみ病院に興味を持つ学生 13日:スタッフMTG 目的:顔を合わせたMTGで、交流会について、また今後のprojectについて考える。 対象:ぬいぐるみ病院プロジェクトスタッフ
参加人数	12日:24人 13日:19人
活動内容	12日 10:00~10:30 受付 10:30~10:40 opening 10:40~12:20 ぬいぐるみ学会 学生全員が「こども」に関わるトピックを調査し、小グループ内で発表し合った。 12:20~14:00 昼食 14:00~16:00 学習プログラム「医療保育士とは？」 筑波大附属病院の医療保育専門士を講師としてお迎えし、医療保育の実際についてご講演頂いた。 16:30~17:30 ぬいぐるみ座談会① 大学でのぬいぐるみ病院の悩みについて、「運営」や「新歓」、「診察」「保健教育」などのテーブルに分かれ、world caféを行った。 18:00~20:30 懇談会 13日 8:30~9:00 受付 9:00~11:40 ミーティング 12:00~13:00 ぬいぐるみ座談会② Projectの今後について、world caféを行った。

<p>自由記載欄 (感想、反省など)</p>	<p>プログラム毎に、詳細内容、参加者の反応や反省点を記載する。</p> <p>①ぬいぐるみ学会</p> <p>「こども」を keyword に、自分に興味のあるトピックについて参加者全員が調査をした。内容としては、「発達障害」「放射線の子どもへの影響」「海外のぬいぐるみ病院」など多岐に渡ったトピックが挙げられた。そして、5~6人のグループに分かれて発表会を行った。また調査内容は紙にまとめたものを印刷して掲示し、コメントを書き合った。</p> <p>②学習プログラム</p> <p>筑波大付属病院で勤務する医療保育専門士の方にご講演を頂いた。始めに30分ほど学生によるPPT(小児緩和医療)とそれを支える職業(Child life specialist、Hospital play specialist、子ども療育支援士、医療保育専門士)の簡単なプレゼンを行った。その後、40分ほどご講演をいただいた。ご講演内容は、筑波大付属病院の小児科の様子、医療保育専門士の仕事内容などであった。その後30分ほど学生から質問時間を取った。</p> <p>③座談会</p> <p>机ごとにテーマを分け、自由に話し合ってもらった。40分間話し合いの時間を設けたが、その間、話し合いたいテーマのテーブルに好きな時に移動してよいとした。また、最初にメモ用紙を配り、大学に持ち帰られそうなことをメモしてもらうよう呼びかけた。</p> <p>グラドルールとして</p> <ul style="list-style-type: none">・ 反応する・ フレッシュな意見に耳を傾ける・ 楽しむ <p>を設定した。</p> <p>話し合い時間は40分。10分を振り返り時間にあてた。</p> <p>一日目：</p> <p>テーマ・・・診察、保健教育、今日の感想、立ち上げ、大学ぬいぐるみの運営、projectについて</p> <p>一日目は、各テーマにホストを用意し、進めた。1テーブル4、5人と少人数であった。</p> <p>二日目：</p> <p>テーマ・・・総会、新歓、スタッフの目的・仕事について、情報共有、projectに求めること、その他の行事</p>
----------------------------	---

	<p>二日目はホストを設けず進めた。参加人数に対してテーマが多かったため、1テーブル3, 4人で話し合い、さらに人がいないテーブルがあった。結局、全員が始めにいたテーブルから動かなかったため、話し合われなかったテーマが出てしまった。</p> <p>二日間を通して：</p> <p>テーマが広がったため話が進むか不安だったが、全体的に積極的な話し合いができていたと思う。与えられたテーマで話すというより、自分たちの話したいことを話していたためだと思われる。ただ、今回は正解をみつけるというより意見に広がりをもたせるという目的だったため、40分では話したりないところが多く見受けられた。</p> <p>また今回、話し合いの途中でテーブルから移動した人はいなかった。話がなかなか収束しなかったというのもあるかもしれないが、移動しづらい雰囲気もあったと思う。</p> <p>次回同じことをやるならば、移動したい人が移動できるタイミングをこちらから出すとよいと思う。</p> <p>④ミーティング</p> <p>交流会に向けて、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スローガン決め ・各プログラム企画案の検討 <p>を行った。</p> <p>交流会のスローガン決めは、グループごとにスローガンを作ってもらい、多数決を取った。結果、「3R (region→receive→renew!）」となった。</p> <p>プログラム企画案の検討では、交流会のプログラム毎に企画案を事前に作成し、それぞれについて参加していたスタッフ全員で意見を出し合った。出た意見は、各プログラムに持ち帰り検討することとなった。プログラム企画案の検討では、事前に各プログラムで企画書を用意してもらっていたこともあり、意見も多く出て活発な話し合いを行うことができた。その反面、時間が足りなくなってしまう個人の目標についてゆっくり考える時間などがなくなってしまった。</p>
<p>スタッフ</p>	<p>責任者：永田浩貴 山足公美絵、遠藤理紗、 青木明香里、木村仁美、谷口雄大</p>

写真

1 日目 (ぬいぐるみ学会の様子)



2 日目 (ミーティングの様子)



集合写真

